

業務改善計画一覧（概要版）

No.	チーム名	テーマ	目的と現状	改善案	期待される効果	実行担当課	振分区分
1	一部消防第一係	きもちよく あいさつを しませんか	<p>【目的】 「あいさつがしっかりしている職場」⇒ 社員が「前向き」「積極的」「協力的」な考え方を持つ傾向にあり、「あいさつが今以上にできる職場」 = 組織の活性化につながるのではないかと考えた。 ハード面ではなく足元を見つめ直す意味と消防組織の活性化のため、あいさつを通して職員同士のコミュニケーションを図り、豊かな人間関係とより良い職場環境を築き、現場活動と市民サービスの向上につなげる。 職員同士はもとより、来庁する市民に率先して声掛けを行うことで市民からの信頼を寄せられる消防本部になることを目指す。</p> <p>【現状】 現在、庁舎周辺環境整備などの際、あいさつ等を行っているが、実際の職員のあいさつに対する意識や現状を知るため、職員アンケートを実施したところ、職員同士のあいさつ、市民に対してのあいさつの必要性をほぼ100%の職員が感じていることに対し、職員同士のあいさつが「できている」「よくできている」と回答している職員は81%、市民に対してのあいさつを「できている」「ややできている」と回答している職員は88%である。</p>	<p>あいさつ運動の目的、意図を全職員に周知させたいので、あいさつ運動を実施することで職員のあいさつに関する意識を高める。 インフォメーションにより掲載する「笑顔であいさつ運動！ 3つの提案」を通し、あいさつが「できている」「ややできている」と感じる職員100%を目指す。</p> <p><u>笑顔であいさつ運動 3つの提案</u></p> <p>①職員間のあいさつをしよう 係員同士のあいさつは名前を呼んであいさつ あいさつ返しも名前を呼んであいさつ ※あいさつの際に名前をつけられると安心感や信頼感が増す効果がある。まずは係員同士から</p> <p>②来庁者へのあいさつをしよう 立ち止まってあいさつ ※届け出や講習受講のため来庁される方、業者の方、清掃員の方へ立ち止まってあいさつ</p> <p>③職員、市民に対してのあいさつ街頭運動をしよう 週1回、朝の通勤通学時間に15分ほど庁舎前に立ち、市民と出勤してきた職員へあいさつ ※署員、出張所職員により、実施予定。山形市消防本部であいさつに取り組んでいることを市民に対して広報する目的も兼ねる。</p>	<p>職員同士のコミュニケーションの活性化及び現場活動と市民サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事に専念できるような雰囲気を作り出し皆が働きやすくなる。 ・現場では、隊員間、小隊間等の活動や情報共有等現場活動に活かせる。 ・事務では、課内、係内で抱えている課題や取り組んでいる仕事を共有し組織として対応できる。 ・組織としてあいさつに取り組むことで信頼できる人を増やす。 ・市民から信頼を寄せられる組織になる。 	東消防署 西消防署	<p>・実行</p> <p>・再検討</p>
2	K2のK2	K2のK2 (改革改善プロジェクトの改革改善)	<p>【目的】 「若手職員の意見」を出しやすいイメージを定着させ、K2プロジェクトを更に活性化するため。 また、大きい課題だけでなく、小さく身近な課題や意見にも全力で取り組むモチベーションの高い組織風土を構築するため。</p> <p>【現状】 発案から発表までの過程に不明な点や不安を抱えている職員やK2に提案したい意見を持っているが、以下の理由等で発表しないことを選択している職員がいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見に自信がない、恥ずかしいと感じている。 ・K2に参加するまでの余裕がまだないと感じている。 ・意見の発表方法について不安がある。 ・自身の提案が反映してもらえないのか不安である。 ・提案について、他の職員の理解が得られるのか不安である。 	<p>① テーマの区分設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コスト」「人員」「労力」を基に区分設定を行うことで他の提案と比較されず、意見を提出しやすい環境をつくる。また、身近な（小さい）問題を出しやすくする。 <p>② 改善会議の省略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善会議での発表を内部事務処理システムによる決裁に代えることで、改善会議を待たずに実行が可能となり、スピード感のある実行体制を構築する。また、発案者の事務負担を軽減する。 ※比較的容易に改善が期待できるもの、業務負担が少なく、低コストで実現可能であるもの等のみ <p>③ 事前研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意で参加する事前説明会を開催し、K2プロジェクトの流れや提案方法、効果的な説明方法を学ぶ機会をつくる。 	<p>職員の意識改革による組織の活性化 モチベーションの高い組織風土の構築</p>	総務課	<p>・実行</p> <p>・再検討</p>

No.	チーム名	テーマ	目的と現状	改善案	期待される効果	実行担当課	振分区分
3	消防と報道機関の共生	災害発生時の報道機関対応の効率化について	<p>【目的】 災害発生時の報道機関等への情報提供について、必要な情報等を整理するとともに、消防・報道機関がそれぞれの災害対応の実情を相互に理解することで双方にとって情報の発信・収集の業務を効率化させる。</p> <p>【現状】 災害発生時には、発生直後から災害に関する電話での問合せが報道機関より多数寄せられるが、多数着信があった場合は対応に苦慮している。その多数の電話の中には警察や他消防本部等の関係機関からの災害に関する連絡や市民からの電話（他県からの救急要請等）も含まれている場合がある。 災害情報の提供や収集が消防と報道機関の双方にとって大きな負担となっていることに加え、関係機関や市民への電話対応が遅れるなど災害対応への影響や市民サービスの低下に繋がる恐れがある。</p>	<p>○新高機能消防指令センターのメール配信機能を活用した効率的かつ効果的な災害情報発信</p> <p>事前に報道機関と消防本部で情報交換会を行い、「報道機関が必要とする災害情報（項目等）」や「消防の災害対応業務（発災から収束まで）の流れ」を共有し、相互に理解を深める。 災害発生時には、共有した「報道機関が必要とする災害情報」をメール配信機能により各報道機関に向け迅速に一斉配信する体制を確立する。</p>	災害情報の発信体制の効率化	通信指令課	<p>・実行</p> <p>・再検討</p>
4	地水利調査改革	地水利改革	<p>【目的】 管内の情報を「いつでも」「どこでも」「かんたんに」全職員で共通の情報を共有できるようにする。</p> <p>【現状】 地水利調査の現状について、あまり実施できていない現状があった。考えられる理由として、地理・水利の把握には地図が必要不可欠であるが、一般の地図には水利情報を含めた「消防に特化した情報」が記載されておらず情報が不足していることが原因の一つとして考えられる。 また、出動時や調査出向時等の目標として、既に廃業・解体した建物等の跡地やマイナーなものを目標物として使用していることがある。これらの情報は職員間の伝聞でのみ伝えられている現状があるため、職員により地理情報の認識に偏りが生じやすい。</p>	<p>Google My Map を使用して全職員で管内の情報共有をする。</p> <p>Google My Map とは、Google Map をベースとして地図上に任意の情報を入力し、任意のメンバーと共有することができるサービスのこと。</p>	<p>・職員の地理・水利の調査や把握を効率的に行うことができる</p> <p>・職員間の伝聞よりも確実に、目標物等の認識を共有することができる</p>		<p>・実行</p> <p>・再検討</p>